

好調さ維持か～米雇用統計

2018年4月2日(月)

今週から新年度入り。機関投資家などからの積極的な取引を期待したいところ。米政治リスクなどへの懸念は根強いものの、一時に比べ警戒感は後退しており、政治相場から、経済状況などをいらんでの相場に移りつつある印象です。

そうした中、今週は6日金曜日に3月の米雇用統計発表を控えています。3月のFOMCで事前見通し通り0.25%の利上げを実施したFRB。参加メンバーによる金利見通しのドットプロットでは前回12月の発表と同様に、年内あと二回の利上げがメンバーによる金利見通しの大勢となりました。

米景気の力強さから、もう少し見通しが強まるとの期待が見られていましたが比較的穏当に収まったという印象です。

経済・物価などの見通しで、経済成長見通しが引き上げられた一方、物価見通しが据え置かれており、物価動向が利上げのカギを握る状態が続いています。

FRBの2大命題である雇用の最大化と物価の安定のうち、経済成長ともかかわる雇用の最大化という意味では、ほぼ完全雇用を達成している状況とみられており、月一のビッグイベントである雇用統計でも、非農業部門雇用者数だけでなく、平均時給なども注目される展開が続いています。

前回の雇用統計では、非農業部門雇用者数が予想の20.5万人を大きく超えて+31.3万人の好結果。前回値も、速報時点の20.0万人から23.9万人と上方修正されており、かなりの好結果となりました。

発表直後はドル買いが一気に進むなど、強めの雇用者数に反応しましたが、すぐに値を戻す展開となりました。

平均時給が前月比、前年比ともに予想及び前回値を下回る弱めのものとなり、物価上昇期待が後退したことが背景にあります。

なお、失業率も、低下見込みが前回と同水準と数字的にはやや弱めとなりましたが、こちらは労働参加率が0.3%も上昇していることが要因で(労働参加率が上がると一般的に失業率は上昇します)大きな影響は与えませんでした。

もっとも、先月29日に発表された2月のPCEデフレータの前年比は総合、コアともに前回値を上回る好結果となりました。

まだインフレターゲットである2.0%には届いていませんが総合1.8%、コア1.6%と近づいてきています。

今回の雇用統計結果次第では年内後2回の見通しが後3回に強まる余地が十分にありそうです。

そうした状況を受けて今回の予想ですが非農業部門雇用者数が前月比+18.7万人。前回強かった分の反動(前月比なので強かった数字との対比)を考えるとまずまずの数字ですが、見た目のインパクト的にはやや鈍化の印象を与えそう。

失業率は4.0%と0.1%の鈍化見込み。平均時給は前月比+0.1%と、前月の+0.2%から鈍化という見通しです。

雇用者数が予想を上回り、節目として意識されている20万人を超える雇用増を見せるとドル買い円売りの動きに。

平均時給は織り込み済みも予想を下回り前月比変わらずもしくはマイナスとなると鈍化のイメージが強まり、年内の利上げ期待を押し下げる可能性も。この場合はドル売り円買いの影響が強くなる可能性があります。